

部落解放研究関係文献目録

(一九八二年十月～十二月)

【現状】

△富山県「同和对策ゼロ地帯」△

(『部落解放』一八六号、10月)

青山直人「朝だ、解放めざして起きよ」——ゼロ地帯の

民衆の奮起を望む

本田 豊「富山県における部落差別の実態」

鶴嶋雪嶺「貿易摩擦と部落差別」(同右)

芳田 勝「日米貿易摩擦と部落産業」(同右)

山口 渉「長崎市における被差別部落の住宅環境実態調査につ

て」(『ながさき部落解放研究』五号、10月)

△千葉の被差別部落△(『部落解放』一八七号、11月)

西田英二「千葉県の被差別部落」

西塚 進「神戸靴業界の現状」

(『月刊部落問題』七二号、11月)

山岸 嵩「喰われていく路地——東京の被差別部落」

(『同時代批評』六号、11月)

西 滋勝「和歌山県の教育調査」

(部落問題研究所出版部、11月)

西田英二「神奈川県内の被差別部落」

(『部落解放』一八九号、12月)

木村吾郎「資料紹介①」『皮革産地中小企業振興ビジョン』

(兵庫県商工部—昭和五五年九月)

(『ひょうご部落解放』八号、12月)

庄谷邦幸「資料紹介②」『大阪ケミカルサンダル業界産地診断

報告書』(大阪府商工部—一九七六年三月刊) (同右)

田村正男「遠くより近くを——差別を考える視点」

(解放出版社、12月)

東京都産業労働会館『かわとはきものNo.1～No.40総目録』

(同上、12月)

【行政】

磯村英一「『地対法』の発足と行政の主体性」

(『部落解放』一八六号、10月)

(資料)「(資料紹介)神戸市における今後の同和行政のあり方

について—答申—一九八二年八月」

(『月刊部落問題』七二号、10月)

山本善信「大阪市における『和解協定』無視の実態」(同右)

磯村英一「『同和』新法と国民的課題——地域改善対策特別措置法

の実施をめぐる」(『社会福祉研究』三二号、10月)

寺尾孔明「同和行政の創造」(解放出版社、10月)

内閣総理大臣官房地域改善対策室編「地域改善対策事業実務の手

引」(中央法規出版、10月)

(資料)「(資料紹介)北九州市の同和行政について(中間答

申)全文」(『月刊部落問題』七二号、11月)

上野雄文「社会党自治体政策研究第17回全国集会第10分科会・部

落解放と自治体——すべての自治体に解放行政を」

(『地方政治』二七二号、11月)

小林 茂「同和行政史」(『部落解放』一九〇号、12月)

友永健三「同和对策新法と部落解放基本法」(同右)

向井 正「行政改革」と「同和」行政」(同右)

門田秀夫「部落差別の実態と同和行政の課題」(同右)

湯浅晃三「これからの同和行政・社会的自立をめざして——中西義

雄氏に聞く」(『部落』四二六号、12月)

(資料)「北九州市同和对策審議会中間答申」(同右)

(資料)「北九州市における土地ころがし疑惑調査報告書の要

旨」(同右)

(『月刊学習』二六六号、12月)

【運動】

△松原パークレーン事件に完全無罪判決△

(『部落解放』一八六号、10月)

部落解放同盟大阪府連松原支部「部落差別に貫かれた冤罪事

件——完全無罪判決をかちとって」

西川雅偉「松原パークレーン事件判決について」

竹端秀夫・池田一人「みんなの支援がオレたちを育ててく

れた」

西田英二「『地対法』にたかる右翼・暴力団——茨城県牛堀町産

業廃棄物処理場問題」(同右)

△反原爆・反差別・被差別部落からの告発△

(『ながさき部落解放研究』五号、10月)

橋本みさ子「小林静代さんの原爆体験」

阿南重幸「末松亨さんと原爆」

上田卓三「差別廃止を具体的に示せ」(『地方政治』二七〇号、

10月)

野間 宏「狭山裁判(第81回)異議申立の棄却決定批判」(17)「

『世界』四四三号、10月)

△部落解放同盟第37回全国大会報告集△

(『部落解放』一八八号、11月)

笠松明広「青年の創造性を生かす運動を——第二六回全青報告と

して」(『解放教育』一五八号、11月)

土屋吉生「部落解放第一回全国高校授学生集会から」(同右)
仲田昭七「(現地報告) 学校隣接の食肉流通センター(屠場) 建設に反対するのは職業差別か」(『部落』四二五号、11月)
木戸季市「(動向) 運動・部落問題全国会議第八回総会開かる」(同右)

浦上立志「伊丹市「林病院事件」の経過と問題点」

(『月刊部落問題』七二号、11月)

野間 宏「狭山裁判(第82回) 異議申立の棄却決定批判」(18)

(『世界』四四四号、11月)

西川雅偉「松原パークレーン事件」

(『自由と正義』三三卷一一号、11月)

(編集部)「同和に群がるえせ団体の暗躍」

(『ジャパンポスト』七八号、11月)

五島隆夫「『同和の帝王に司直の手が』」

(『現代の理論』一九卷三号、11月)

(編集部)「(事件の裏面) 被差別部落、床屋、外国人…には売らない丸八真綿」(『マスコミ評論』八巻一一号、11月)

部落解放第九回住吉地区研究会実行委員会事務局編「部落解放第九回住吉地区研究会討議資料」(同上、11月)

部落解放同盟大阪府連加島支部編「淀川郵便局差別部落事件糾弾要綱(解放新聞加島版、臨時号)」(同上、11月)

《特集》「身元調査——現在の課題」

(『部落解放』一八九号、12月)

大西正義・友永健三・青山直人・端山範秀・河野武一「(座

な)「(同右)

大森信子「甲陽病院(青屋市・岡野昌弘院長)の部落差別を許さ

ない」(同右)

鶴嶋雪嶺「同和新法」・兵庫シンポジウムの成功と部落解放運

動の新しい課題」(同右)

《特集》「これからの解放運動」(『部落』四二六号、12月)

北杉玲子「全国部落解放運動連合会をめざす運動とは——村崎

勝利氏に聞く」ほか

中西義雄「(動向) 運動・混迷と破綻深める『解同』大会」(同

右)

(資料)「(資料紹介)兵庫県に対する部落解放要求(兵解進)」

(『月刊部落問題』七三三号、12月)

野間 宏「狭山裁判(第88回) 異議申立の棄却決定批判」(19)

(『世界』四四五号、12月)

田宮 武「生きて闘って——南但馬の部落差別と解放運動」

(兵庫部落解放研究所、12月)

朝日新聞西部本社「土地ころがし」(『章書房』12月)

【理 論】

編集部「部落解放研究文献目録」

(『部落解放研究』三二号、12月)

渡辺俊雄「部落解放理論入門」(『部落解放』一九〇号、12月)

原田伴彦「部落解放理論の課題」(同右)

東上高志「『部落』誌復刻の意義」(『部落』四二六号、12月)

東上高志「(今月の部落問題・同和教育)『部落』第一号」(第百

九号)

談会〈身元調査と部落差別

萩田哲男「戸籍・住民票公開制限のたたかい」

露木まきひろ「知られざる興信所の実態」

嵯峨野洋「過去帳」と身元調査」

藤林晋一郎「『行政サービスのいまずき』と部落差別」(同右)

大賀正行「新法下の部落解放運動の展望」

(『部落解放』一九〇号、12月)

西岡 智「『狭山』新証言と再審請求」(同右)

谷木寛作・田中 勝「部落解放と反差別共闘」(同右)

松下松次「部落解放と労働運動」(同右)

山中多美男「最近の差別事件の特徴と課題」(同右)

大谷正明「新執行部を選び若がりはかる——部落解放同盟第三

七回全国大会」(『解放教育』一六〇号、12月)

笠松明広「ふえた率直な発言——第一六回部落解放研究全国集

会」(同右)

《緊急報告》俳優座公演「食肉市場のジャンヌ・ダルク」糾弾

闘争②②」(『東京部落解放研究』三二二号、12月)

金沢茂雄・鶴飼光三・渡部有幸ほか「(座談会)闘いの背景

と成果と問題点を語る」

《特集1》「第四回県研と兵庫の解放運動」

(『ひょうご部落解放』八号、12月)

池田千津美「ゼッケン登校——主婦と子供の体験を通して」

淵本 稔「誇りうる人間の血は濁れず」

岡本信子「同和教育の成果はどこに」

号復刻」(『月刊どの子も伸びる』六八号、12月)

【解放教育】

村田 拓「八鹿高校差別教育糾弾闘争とその公判におけるたたか

い(下)」(『部落解放』一八六号、10月)

佐々木昇一「親の思い子の思い」を読んで——中川先生への手

紙——」(『解放教育』一五七号、10月)

関 敬子「◎」にんげん」実践シリーズ・東共同浴場のうつりか

わり——」わたしたちの町」(同右)

《特集》「学園における部落研活動」(『部落』四二四号、10月)

畦地享平「高校生の自主的な部落研活動の発展——『地域実態

調査』のもつ意義について」

福田良夫「高校生の地域交流学習——岡山県における自主活動

としての部落実態調査活動——」

谷口藤雄「『とどろきの泉わく村』調査活動——京都府中丹高

校生の部落実態調査——」

高原伸幸「学園を基盤に学び成長する学生部落研を——全

国学生部落研の現状と課題——」

高 誠郁・三宅 匡・進藤朋巳ほか「(座談会)学生部落研

の現状と活動のあり方をめぐって」

《特集》「子どもの認識と部落問題の学習」

(『季刊同和教育運動』十九号、10月)

川合 章「子どもの社会認識の発達をめぐって」

辻多喜雄「小学生の生活と人権意識」

- 谷口幸男「中学生の現状と部落問題の学習」
 池田賢二・水谷昭「人間としての生き方をもとめて」
 山田 稔「高校生の意識と部落問題の学習」
 山下楠一「高校生の憲法意識について—平和・人権を中心に—」
 (同右)
- 沢野重男「戦争と差別を許さない生き方をもとめて—広島県高校
 生平和ゼミナールのとりくみ—」(同右)
- 中野 功「社会科教科書と『部落問題』学習—高校『現代社会』
 教科書にみられる『部落問題』の記述について」(同右)
- 編集委員会「『教科書問題』資料について」(同右)
- 西森郁代「同和保育の現場から①—同和保育白書づくり・桜井市
 立第1保育所」(『ほらっほ』二二号、10月)
- 山中多美男「第3回全国保育集会第8分科会・同和保育入門—最
 も底辺におかれている子を大切に」(同右)
- 宮崎一郎「歴史教育者協議会第34回新潟大会第6分科会・人権と
 民族」(『歴史地理教育』三四二号、10月)
- 小沢有作「部落解放教育論—近代学校を問ひなす」(『社会評論
 社』10月)
- 東上高志「戦後同和教育史」(青木書店、10月)
- 大阪大学編『部落問題について』(同上、10月)
- 大阪同和保育連絡協議会編『第16回大阪「同和」保育研究会討
 議資料』(同上、10月)
- 大阪同和保育連絡協議会保育運動交流部会編『家庭訪問・連絡帳
 を見直す—24時間の生活の組織化をめざして第6集』(同上、

- 杉山 守「進んで学習する子供たちを育てる」
 小曾根隆「N子先生から学んだこと」
 斎藤浩志「人権教育としての同和教育」
 (『月刊部落問題』七二号、11月)
- 玉田勝郎「定型と錯乱—福地幸造『落第生教室』を読み直す」
 (『現代教育科学』三二二号、11月)
- 小川正巳「『落第生教室』と福地幸造」(同右)
- 黒田伊彦「高校教科書『現代社会』批判—誤りに満ちた部落問題
 の記述」(『季刊労働運動』三三三号、11月)
- 末永 浩「中学校の平和教育—修学旅行を通して平和と人権を—
 大阪・松原第三中学校の取組み」(『ヒロシマ・ナガサキの証
 言』四号、11月)
- 東 義和『同和教育の歴史的研究』(明石書店、11月)
- 部落問題研究所編『友情と連帯の広場』(同上、11月)
- 都立高等学校同和教育研究会編『あゆみ—同和教育読本』
 (同上、11月)
- 全国同和教育研究協議会編『第34回全国同和教育研究大会分科会
 報告書集』(同上、11月)
- 全国同和教育研究協議会第34回大会鳥取県実行委員会編『第34回
 全国同和教育研究大会資料』(同上、11月)
- 全国解放保育連絡会・広島県解放保育連絡会編『第5回全国解放
 保育研究会集』第3回広島県解放保育研究会集』
 (同上、11月)
- 全国解放保育連絡会・第4回全国解放保育研究会集高知県実行委

10月)

- 第15回大阪府同和教育研究大会堺現地実行委員会編『研究紀要—
 この子らが自らの解放に立出することを期してただひたむき
 に』(堺市同和教育研究会、10月)
- 黒田伊彦「検定・高校教科書の記述を批判する—その①被差別部
 落にかかわる記述」(『部落解放』一八七号、11月)
- 《特集》「解放教育運動—その自立と連帯・第12回全国解放教
 育研究会集」(『解放教育』一五八号、11月)
- 寺沢亮一「いま問われていること」
 多田 司「いちがいの」
 宮本 繁「私の歩んできた人生と差別」
 中野陸夫「図書紹介／『人間として』」(同右)
- 《特集》「部落問題の授業」
 (『月刊どの子も伸びる』六七号、11月)
- 東上高志「『小学校における部落問題の授業』—しなけれ
 ばならないことと、してはならないこと」
 浜田博生「〈小学校社会〉片桐の小作争議を学ばせる」
 安藤正武「〈小学校社会〉『渋染一揆』の教材で幕藩体制の
 崩壊の一面面を」
 福井雅英「〈中学校歴史〉全国水平社の創立をどう教えた
 か」
 大山正克「〈中学校公民〉公民領域での部落問題学習」
 多賀敏嗣「〈中学校地理〉『身近な地域学習』における同和
 教育」
- 員会編『解放保育の新たな前進に向けて—第4回全国解放保
 育研究会・第1回高知県解放保育研究会報告集』
 (同上、11月)
- 文部省編『昭和56年度全国同和教育研究協議会記録』
 (同上、11月)
- 文部省編『昭和57年度同和教育研究協議会(学校教育関係)開催
 要項』(同上、11月)
- 鈴木祥蔵「教科書問題について」
 (『部落解放』一九〇号、12月)
- 鈴木祥蔵「同和保育の理論と実践」(同右)
- 《特集》「子どもをきたえる」(『解放教育』一六〇号、12月)
- 小坂橋二郎「教育という名の管理」
 山下義弘「誰一人かけることなく」
 中川福督「朴仲治のこと」
 加藤宗三郎「学ぶことの感動を」
 松本郁夫「悩み考え学び」
 鈴木孝子「『愛のムチ』というムチはない」
 楨枝元文「私をきたえたことば」
 さねとう・あきら「軍国教育からの逃亡」
 畑中 武「『重点教科コース』高校設置導入阻止にむけて—部
 落解放共闘教育部の闘いの経過」(同右)
- 貞岡正子「いまこそ地域に根ざした教育大運動を—栃崎博孝氏に
 聞く」(『部落』四二六号、12月)
- 井本武美「『地域改善対策特別措置法』と同和教育のゆくえ」

『社会科教育』二二七号、12月
佐古田好一編『教師のしごと—なまじり・授業づくり』
〔部落問題研究所出版部、12月〕

【人権】

岩松繁俊「バートランド・ラッセルの差別にたいするたたかい」

〔『ながさき部落解放研究』五号、10月〕

石田 明「核時代における平和教育の課題」

〔『解放教育』一五七号、10月〕

〈特集〉「被差別大衆の生活と文化—インド」

〔『差別とたたかう文化』十一号、10月〕

土方 鉄・吉田卓司・泉 慶機「〈座談会〉インド被差別民

衆の生活と運動—〈1〉」

村田恭雄「カースト制と不可触民差別（1）」

竹内泰宏・ダシユグプト・渡辺建夫「〈座談会〉インドの文

学とカースト」

木津 謙・西尾心治・大賀喜子ほか「〈座談会〉インド被差

別民衆の生活と運動—〈2〉」

伊瀬知徹「インドへの旅—思い出しの記」

市川純子「インドで体験したこと」

安東 博「アグラ・大理石・職人」

〈特集〉「プライバシー保護の新動向」

〔『ジュリスト』七七五号、10月〕

岩井政治・垣見龍次・加藤一郎ほか「〈座談会〉個人データ

の処理に伴うプライバシー保護対策をめぐって」

菅坂和邦「個人データ処理に伴うプライバシー保護対策—

プライバシー保護研究会報告の概要」

堀部政男「地方自治体における新しいプライバシー保護の必

要件」

〈特集〉「ナチズム—ワイマールからナチスへ」

〔『パピエコレ』創刊号、10月〕

野間 宏・沖浦和光「〈報告・討議〉差別・被差別の新座標を探

る—インドの旅から中国、日本へ—①古代から超近代を生きの

びるカースト制の衝撃」

〔『朝日ジャーナル』二二二六号、10月〕

野間 宏・沖浦和光「差別・被差別の新座標を探る—インドの旅

から中国、日本へ—②浄、穢、秩序を配列しきった社会の分厚

さ」〔『朝日ジャーナル』二二二七号、10月〕

野間 宏・沖浦和光「差別、被差別の新座標を探る—インドの旅

から中国、日本へ—③ヒンズーの絆を断ち切る青年層の水脈」

〔『朝日ジャーナル』二二二八号、10月〕

堀部政男「名譽・プライバシーと弁護士」〔『法学セミナー増刊

（総合特集シリーズ20）現代の弁護士—市民篇』、10月〕

中島通子「女性の権利問題と弁護士」〔同右〕

高橋 武「国際法と社会保障—内外人平等原則を中心に」

〔『現代法と社会保障—社会的人権思想の展開』所収、総合労

働研究所、10月〕

〔編集部〕「日本は朝鮮で何をしてきたか—悪魔の所業かさねた

日帝の侵略の実態」〔『新青年』七二一号、10月〕

V・T・ラジシュカー・シェティ「定点観測—インド1—イン

ドにおけるカースト戦争」

〔『季刊クライシス』一三三号、10月〕

菅原真理子「〈海外の動向〉国連高齢者問題世界会議報告—ウイ

ーン会議に出席して」〔『社会福祉研究』三二一号、10月〕

竹内康江「平等原則についての覚書—学説の現況と問題点」

〔『法律時報』六六三号、10月〕

林 瑞枝「フランスの外国人労働者の地位」〔同右〕

柴山恵美子「男女平等をめぐる労資の争点」

〔『月刊労働組合』一八七号、10月〕

佐藤友之「弁護士の内幕—弁護士は正義の味方か」

〔三一書房、10月〕

日本精神薄弱者福祉連盟編『精神薄弱者問題白書1982年版』

〔日本文化科学社、10月〕

むくげの会編『朝鮮1930年代研究』〔三一書房、10月〕

三好亜矢子『フィリピンレポート』〔女子パウロ会、10月〕

国立婦人教育会館編『国立婦人教育会館所蔵図書目録第二編』

〔同上、10月〕

女性と職業研究会編『家事と育児を分担する男たち』

〔現代書館、10月〕

藤林晋一郎「連載・部落に生きる『障害者』群像—大阪編（第一

話）みんなの手話」を覚えてや—部落解放同盟生江支部」

〔『部落解放』一八七号、11月〕

仲村 昇「地域に根ざした沖繩子ども会活動へ」

〔『解放教育』一五八号、11月〕

岡倉徹志「パレスチナはいまどうなっているか」〔同右〕

ファトヒ・アブドルハミード「祖国と人間の解放を求めて」

〔同右〕

稲富 進「右傾化に抗する実践の視座を—在日朝鮮人教育全国

集会—その特徴と展望」〔同右〕

〈特集〉「婦人教育労働者」〔『教育評論』四二五号、11月〕

柴山恵美子「資本主義危機下の婦人労働者の現状と課題」ほか

〈『プライバシー保護と新聞』〉〔『新聞研究』三七六号、11月〕

堀部政男・黒田英文・平松 斎ほか「〈座談会〉プライバシー

—問題の現状」

村上孝止「プライバシー判例と法規定の展開」

松井修規「イギリスのプライバシー法案とプレス」

〔資料〕「個人データの処理に伴うプライバシー保護対策」

〈特集〉「侵略への反省と反戦の視点」

〔『月刊総評』二九九号、11月〕

松田州弘「沖繩住民を虐殺した日本軍」ほか

〈特集〉「教科書検定を斬る」〔『歴史評論』三九二号、11月〕

高嶋伸欣「教科書から削られた日本軍の沖繩住民殺害」ほか

〈特集〉「平和・軍縮教育と反核運動」

〔『ヒロシマ・ナガサキの証言』四号、11月〕

柴山恵美子「講座・女性と労働—昨日・今日・明日（第四回）—保護

と平等、いま欧米では」〔『季刊女子教育もんだい』十三号、

11月)
佐野通夫「本名を呼び名の中で教育の本質に——『第三回在日朝鮮人教育研究全国集会』に参加して——」(『海峡』十一号、11月)

熊谷年夫「報告」朝鮮を正しく教えるための教材化—副読本『日本の歴史と朝鮮』つくりへの取り組み」

(『季刊三千里』三二号、11月)

アジア太平洋資料センター「もうひとつの世界から—南アフリカ—白人政府の差別体制を揺がす黒人労働者のたたかい」

(『現代の眼』二七五号、11月)

大沼保昭「変わったもの、変らぬもの—在日韓国朝鮮人問題の現状と将来(一)—」(『朝鮮研究』二二五号、11月)

佐々木辰夫「沖縄反戦、反基地、平和闘争—とくにいわゆる教科書問題にふれて」(『社会評論』四〇号、11月)

岸野淳子「安中オミニの身世打鈴・まえがき」

(『思想の科学』二四号、11月)

當別當季正「外国人登録法の一部を改正する法律」

(『法律のひろば』三五卷一—号、11月)

萩野芳夫「台湾人元日本兵の補償請求事件」をめぐって」

(『ジュリスト』七七八号、11月)

石村 健「国公立大学外国人教員任用等特別措置法」

(『ジュリスト』七七七号、11月)

柴山恵美子「コンピュータ・OA下での婦人労働」(『労働運動研究』一五七号、11月)

野間 宏・沖浦和光「差別・被差別の新座標を探る—インドの旅から中国、日本へ—④淨穢観と一線を画す中国律令の貴賤観」(『朝日ジャーナル』二二二九号、11月)

野間 宏・沖浦和光「差別・被差別の新座標を探る—インドの旅から中国、日本へ—⑤日本古代・中世における差別の原思想」(『朝日ジャーナル』二二四〇号、11月)

野間 宏・沖浦和光「差別・被差別の新座標を探る—インドの旅から中国、日本へ—⑥日本の生業、文化を担った被差別民衆」(『朝日ジャーナル』二二四一—号、11月)

関根義雄「個人データの処理に伴うプライバシー保護対策」について」(『法律のひろば』三五卷一—号、11月)

寺沢勝子、蒲田豊彦「関西経営者協会「労基法改正意見書」を批判する」(『労働法律旬報』一〇五九号、11月)

柳 大遠「差別と監視の中で—抑圧される在日朝鮮人の人権」(現代史出版会、11月)

藤本英夫「知里真志保の生涯」(新潮選書) (新潮社、11月)

田中勝也「サンカ研究」(郷土の研究11) (翠楊社、11月)

兵庫県教職員組合・兵教組教育研究所「原爆を知っていますか—

82「原爆の図」神戸展の記録より」(同上、11月)

日本アジア・アフリカ作家会議編「民衆の文化が世界を変えた

めに」(恒文社、11月)

阪本昌成「プライバシーの権利」(成文堂、11月)

朴 慶植「1920〜30年代民族運動」(朝鮮問題資料叢書第

6巻) (アジア問題研究所、11月)

高美中学校漫画研究会編『典子は今』(八尾市立高美中学校、11月)

マチユー・ドレフニス著・小宮正弘訳『事件—マチユー・ドレフニスの回想』(時事通信社、11月)

篠原隆治「障害児」教育と人種問題—アメリカでの体験と思索—」(現代書館、11月)

児島美都子編『障害者雇用制度の確立をめがけて』(法律文化社、11月)

《特集》「反差別国際会議にむけて」(『部落解放研究』三二二号、12月)

小川 悟「ロマに対する差別の実態と解放運動の歩み」

村田恭雄「アメリカ黒人解放運動の歴史と現状」

山際素男「インド被差別民衆の実情と解放運動」

林 瑞枝「フランスにおける差別と反差別の闘争」

ティム・メイ「ロンドンの三つの少数民族コミュニティ」

斎藤恵彦「人種差別撤廃条約とその委員会の活動—ホセ・

イングレス氏の来日によせて—」

ドナルド・リーチ/訳・村田恭雄「(書評) The Invisible

Minority (見えない被差別部落民)」(同右)

北尻得五郎「国連軍縮総会と平和・人権の課題」

(『部落解放』一九〇号、12月)

森野八重「プライバシー保護の現状と課題」(同右)

森井 暉「エン罪と司法反動」(同右)

高橋峰和「平和・人権教育の現状と課題」(同右)

塩沢美代子「女性差別の実態と課題」(同右)

徐 正禹「在日朝鮮人差別の現状と課題」(同右)

山下栄一「『障害者』差別の現状と課題」(同右)

本岡昭次「外国人登録制度と人権」

(『ひょうご部落解放』八号、12月)

《人工妊娠中絶》(『現代性教育研究』五五号、12月)

青野由利子・飯島愛子・草野いづみ「(海外資料) 世界各国

の中絶に関する法律の変遷と実態」

編集部「(緊急報告) 優生保護法改正をめぐる動き—その発

端から現在まで」はか

半田たつ子「子どもたちに労働の喜びをどう教えるか—新しい家

庭科教育の実践」(『月刊社会教育』三二〇号、12月)

藤田雅子「新聞にみる障害者に対する社会の意識」

(『文科大学人間科学研究』四号、12月)

峰岸是雄「開かれた行政と情報公開(6)—個人情報公開について」(『月刊自治研』二七九号、12月)

徐 正禹「差引の本質は変わっていない—二二二号佐藤論文によ

せ」(『朝鮮研究』二二六号、12月)

越智道雄「アメリカ少数民族を紀行する上—差別体験の文学的克

服が始まった」(『朝日ジャーナル』一二四三号、12月)

越智道雄「アメリカ少数民族を紀行する下—寛容でこころで対

抗する白人保守勢力」(『朝日ジャーナル』一二四四号、12月)

大橋隆憲「いいかげんな統計でなにが福祉行政か—都道府県別障

害者概数調査結果について」(『経済』二二四号、12月)

北 克己「いま沖縄で……本土に報道されない『無告の声』」

(『マスコミ市民』一七五号、12月)

戸塚悦朗・光石忠敬・喜田村洋一「ヨーロッパ人権裁判所判決と精神障害者の人権―改革を迫られる日本の精神衛生法制」

(『ジュリスト』七十九号、12月)

中島通子「女性労働はどこまで保護されるべきか―『保護』は『平等』の障害ではない」

(『エコノミスト』二四九四号、12月)

清水英夫「情報に関する欧州評議会閣僚委員会の勧告と宣言」(『新聞研究』三七七号、12月)

津田道夫「障害者教育の歴史的成立―ルソー・イタール・セガン・モンテッソーリ」(三一書房、12月)

長谷川正安編『現代人権論』(公法学会研究1)

(法律文化社、12月)

内山一雄『在日朝鮮人と教育―朝鮮を知る教材と実践』

(三一書房、12月)

沖野岩三郎『娼妓解放哀話』(中公文庫) (中央公論社、12月)

イーデス・ハンソン、武者小路公秀『世界人権宣言』(岩波ブックレットNo.13) (岩波書店、12月)

婦人民主クラブ編『婦人民主新聞縮刷版第5巻(1971年〜1975年)』(同上、12月)

反差別国際会議実行委員会編『世界の反差別運動と部落解放運動』(同上、12月)

反差別国際会議実行委員会編『反差別国際会議しおり』

(同上、12月)

【社会啓発】

〈特集〉「社会啓発活動の現状と課題」

(『部落』四二五号、11月)

東上高志「これからの社会啓発―その経過と現状と課題」

宮田一夫「同和問題の正しい理解をすすめるために―東京都の広報活動を中心に―」

初村九而「大阪市の同和啓発活動検討への問題提起」

枋崎博孝「和歌山県における啓発活動」

山田哲二郎「大津市の同和啓発と広報」

岡田雅一「『県民だより』にみる社会啓発の現状と問題点―奈良県の場合―」

吉川 徹「『啓発』を考える―長野・望月町―」

西村良平「婦人会活動と同和問題学習―京都・八木町―」

和歌山県吉備町「吉備町同和啓発の現状―身近な問題をとりえ、いのちを大事にする行動を―」

重高博雄「わがまちの住民学習のとりくみ―広島・豊栄町―」

細川光利「岡垣町における社会同和教育のとりくみ―福岡・岡垣町―」

木村光夫「(動向) 教育・社会同和教育実践の見直し―第22回社会教育研究全国集会の分科会討議から」(同右)

木村光夫「第22回社会教育研究全国集會報告第4分科会―差別人権問題と社会教育」(『月刊社会教育』三〇九号、11月)

藤沢谷子「識字学級とわたしたち」

杉浦明平「差別と表現」

川元祥一「近代のオブジェ―俳優座『食肉市場のジャンヌ・ダルク』について」(『差別とたたかう文化』十一号、10月)

立石憲利「(岡山の仕事歌) 真田組み歌」

(『部落問題―調査と研究』四〇号、10月)

中西義雄「部落差別とはなにか(上)―俳優座『食肉市場のジャンヌ・ダルク』公演をめぐって」(『部落』四二四号、10月)

池田孝雄「いわゆる『賤称語』とよばれる問題について―その背景を考える―」(『季刊同和教育運動』十九号、10月)

(編集部)「海的生活への思いをこめて―復活した高知・赤岡町の盆踊り」(『部落解放』一八七号、11月)

松江ちづみ「第8回部落解放文学賞児童文学部門佳作(連載第6回)―あんちゃん」(同右)

梅沢利彦「藤村『破戒』史への『二石』の波紋―新潮文庫の新解説」(同右)

福岡正志「町ぐるみの文化の創造をめざして」

(『解放教育』一五八号、11月)

中西義雄「部落差別とはなにか(下)―俳優座『食肉市場のジャンヌ・ダルク』公演をめぐって」(『部落』四二五号、11月)

(編集部)「拡大する放送禁句第1弾―『片手落ち』から『サッカー』まで」(『放送レポート』五九号、11月)

日本アジア・アフリカ作家会議編「差別とたたかうと言葉」

(『民衆の文化が世界を変えるために―アジア・アフリカ・ラ

《創る―みんなで作る文化のページ》
(『部落解放』一八六号、10月)
《特集》「書くこと」(『解放教育』一五七号、10月)
かんべひろし「書くことはむずかしくはない」
ありのまま舎「魂の詩―生きる証しとして」
新田洋子「みんななかつらいことあんねんなあ」
舟木祐二「私も昔かなくてならなら」

第3回同和問題企業啓発講座実行委員会編『第3回同和問題企業啓発講座受講者ノート』(同上、11月)
部落解放研究所編『社会啓発情報No.10』(同上、11月)
稲積謙次郎「マスコミと人権」(『部落解放』一九〇号、12月)
香野貞人「企業と部落問題」(同右)
吉田猪三「社会同和教育の新しい視点」(同右)
江嶋修作「差別意識の構造と教育」
(『解放教育』一六〇号、12月)
(資料)「(県内情報) フィルム紹介―小野市」(同右)
阪本保雄「広報マン登壇―広報紙コンクールに『人権部門』を創設して」(『広報』三五四号、12月)
吉田 正「差別意識の内的構成と『同和』教育の課題」
(『追手門学院大学文学部紀要』一六号、12月)
茨木市・茨木市教育委員会編『人権作品と同和問題』(同上、12月)

【文化・思想】

テンアメリカ文化会議の記録』所収、恒文社、11月)
日本アジア・アフリカ作家会議編「被差別部落における識字運動」(同右)

大宮永司「『問題にされた資料』の検討原則を考える―特に回収要求をめぐって」(『みんなの図書館』六六号、11月)

佐野由紀子・和田桂子・高木奈保子「名古屋市図書館における『図書館の自由』の実践」(同右)

岡山直和・大谷清人・鬼木坤次郎ほか編『部落の文化創造と再生を(上)』(福岡県同和教育研究協議会社会教育部会、11月)

福岡正志「被差別部落における文化遺産の継承と教材化」

(『部落解放研究』三二二号、12月)

《特集》「差別と表現(中)」

菅 孝行・須藤出穂・土方 鉄・村田 拓「シンポジウム・

差別と映像―反差別の映像を問う」

反差別映画祭実行委編「(資料)年表『差別と映像』」

東 栄蔵「講演・小説『破戒』の評価をめぐって」

長谷川三郎・東 栄蔵・竹内泰宏「シンポジウム・『破戒』

を通して差別と表現を考える」

直原弘道「(書評)『私たちの創造』―部落解放同盟中央本部文化対策部編」(『ひょうご部落解放』八号、12月)

部落解放同盟兵庫県連合会南武庫之荘支部「(文化活動)守部観

音おどりの歴史と解放運動への役割」(同右)

前 圭一「柏原・淡路の旅―『破戒』のモデルを求めて―」

(『月刊部落問題』七三三号、12月)

立石憲利「(岡山の仕事歌③)餅搗き歌」

(『部落問題―調査と研究』四一号、12月)

千田是也「『食肉市場のジャンヌ・ダルク』の上演について」

(『前衛』四八七号、12月)

【宗教】

石尾芳久「差別戒名と被差別部落形成との必然的関連について」

(『解放教育』一五七号、10月)

多田寛田「高まる『宗教と部落問題』への関心―第7回研究会会

に参加して―」(『月刊部落問題』七一號、10月)

原田伴彦「宗教と部落問題」(難波別院、10月)

ルイス・グリヤ「部落差別とキリスト教」

(『部落解放』一八七号、11月)

嵯峨野洋「グリヤさんのこと」(同右)

仲尾俊博「差別戒名」をめぐる三冊の差別図書―その③『無縁慈

悲集』」(同右)

《特集》「宗門の差別体質の解体と再生と―日本の現実と世界的

現実との交点を求めて」(『解放教育』一五九号、11月)

福地幸造「編集前記―なぜ東本願寺なのか」

〈I章 教団・宗派の閉鎖性を超えて〉

丸山照雄「宗教的思惟の現実性について―日蓮の視座から

の試論」

戸次公正「『東本願寺』の存在」

宗 正元「愚禿の世界を行く」

〈II章 教団と民衆の交点〉

和田 穉「戦争犠牲者に応える道」

藤元正樹「培國・同和問題の基底」

玉光順正「われら非核・非戦に集う」

泉 恵機「『報国』仏教の闇の中から―アイヌ民族に照射

される大谷派教団」

井元麟之「部落差別と仏教の業思想」

〈III章 教団の指向と「僧伽」について〉

伊勢谷 功「私の『教団問題』を語る」

菱木政晴「目前の教団論をめぐって」

佐藤秀人「一実の歩み」

落合治夫・落合馨子「親鸞塾とは何か」

〈IV章 追悼二つ〉

落合馨子ほか「笠原初二追悼」

笠原初二「(遺稿)なぜ親鸞なのか―学生運動総括」

菅 龍一「善財童子ものがたり―父追悼三部作のこと」

〈V章 民衆の生と性〉

赤松啓介「土俗と信仰」

梶満里子「山谷を生きた女たち―その生と性」

〈VI章 資料〉

飯 正敏「五辻宗務総長に問う―『気分はもう戦争』の情

況にあつて」

本郷成光「(座談会)糾弾の意味を問う―その問題

(資料)「(同炎の会)宣言」

(資料)「東本願寺への糾弾―上杉佐一郎解放同盟書記長

の冒頭演説」

曾我量深「異るを歎く」

仲尾俊博「浄土真宗と部落問題」

(『大法輪』四九卷一―号、11月)

摂津市同和事業促進協議会編「差別戒名の問いかけるもの」

(同上、11月)

仲尾俊博「差別戒名」をめぐる三冊の差別図書―その④「直観

政要格式目」(『部落解放』一八九号、12月)

木津 謙「宗教と部落問題」(『部落解放』一九〇号、12月)

【通史】

山本泰男「私にとっての部落解放運動」

(『ながさき部落解放研究』五号、10月)

松井久吉「◎わが半生の記・7・戦争と部落」

(『解放教育』一五七号、10月)

山本利平「私と水平社運動との出会い」

(『部落問題―調査と研究』四〇号、10月)

大森久雄「歴史研究部活動強化への提言」(同右)

中尾健次「連載・部落史研究と教育の課題④―部落史教育の現状と課題―『解放令』とこれ以降を中心として」

(『同和教育』二四七号、10月)

本田 豊「狭山の部落史(6)形成と解放へのたたかい」

(『狭山差別裁判』一〇六号、10月)
 間瀬久美子「近世史部会活動報告」安良城盛昭・近世賤民制の成立と展開―研究史の整理と分析視角の提示」

(『歴史学研究月報』二七四号、10月)

石川一郎「被差別部落ノート―狭山・わが郷土の覚え書(最終回)」(『部落解放』一八七号、11月)

松井久吉「わが半生の記・8―敗戦のころ」

(『解放教育』一五八号、11月)

山本利平「部落問題研究への証言2―水平運動家の軌跡・アナからボルへ―山本利平氏に聞く」

(『部落問題研究』七三三号、11月)

秋浦 勝「部落の成立に関する伝説の検討―京都府八幡市の例―」(同右)

荒井貢次郎編「関東・東海被差別部落史研究」

(明石書店、11月)

喜田貞吉『60年の回顧・日誌』(喜田貞吉著作集第14巻)

(平凡社、11月)

中尾健次「部落起源説に関する研究史の歩み(下)」

(『部落解放研究』三三二号、12月)

中野陸夫「(書評)『盛田嘉徳部落問題選集』」(同右)

松井久吉「わが半生の記・9―胎動のなかで」

(『解放教育』一六〇号、12月)

小嶋克己「高橋貞樹と私」(『大阪労働運動史研究』四号、12月)
 本田 豊「部落史を歩く―ルポ、東北・北陸の被差別部落」

(柏書房、12月)

【近代】

増田史郎亮「落穂拾い(被差別民史)」

(『ながさき部落解放研究』五号、10月)

増田史郎亮・増田幸子「大村藩の被差別部落について(補遺)―

城下、池田・宝庫野を中心として―」(同右)

若木太一「(資料翻刻)島原松平文庫蔵『穢多取扱』(承前)」

(同右)

石尾芳久「差別戒名と被差別部落形成との必然的関連について」

(『解放教育』一五七号、10月)

人見彰彦「(シリーズ)部落史のひとこま」

(『部落問題―調査と研究』四〇号、10月)

調査研究所研究部会・歴史(前近代)「(史料解説)打牛仕候者

一件(三)(同右)

三浦圭一「部落の生活史7―或る河原者の春」

(『部落』四二四号、10月)

伊藤一明「五郎兵衛と用水」(基礎研究シリーズ⑥)

(信州農村開発史研究所、10月)

のびょうじ「露牛馬処理権をめぐる二、三の問題」

(『部落問題研究』七三三号、11月)

三浦圭一「部落の生活史8―ある三味聖の慈悲と勇氣」

(『部落』四二五号、11月)

後藤正人「沼田藩穢多の太鼓献納願と江戸町与力」

足立雅子「歴史科学協議会第16回大会総会参加記『神野報告を

聞いて』」(同右)

三好昭一郎編「四国近世被差別部落史研究」(明石書店、12月)

【近代】

『特集』「近現代の被差別部落」

(『ながさき部落解放研究』五号、10月)

園田尚弘「長崎の新聞に掲載された被差別部落に関する記事

について―『九州日の出新聞』の場合―」

阿南重幸「長崎における近代被差別部落の出生」

中瀬寿一「大塩事件と自由民権運動(上)―『民権百年』によせ

て、大塩平八郎の像の再検討」

(『季刊科学と思想』四六号、10月)

星野 隆「30年代型戦時部落政策への突入をめぐる階級的攻防に

ついて―80年代中期階級決戦と革命的部落解放闘争の展望」

(『共産主義者』五四号、10月)

田窪清秀「ひとつの教訓の歴史3―水平社解消意見書から部落委

員会活動まで」(『社会評論』三九号、10月)

鈴木裕子「婦人水平運動史論覚え書(三)」

(『部落解放』一八七号、11月)

藤野 豊「融和運動史研究をめぐる論点と課題―1920年代

を中心として―」(『部落問題研究』七三三号、11月)

足立雅子「(紹介)『揖龍の部落史』(第2巻・近代篇1)」

(同右)

(『月刊部落問題』七二号、11月)

『特集』「三好昭一郎編・『四国近世被差別部落史研究』刊行を

めぐって」(『明石』三三号、11月)

三好昭一郎ほか「座談会」

集史料の紹介」

立石恵嗣「研究動向2―徳島県部落史研究」

小林 茂「研究動向3―『東北・北越被差別部落史研究』

紹介と書評」

黒田日出男「中世民衆の皮膚感覚と恐怖」(『民衆の生活・文化

と変革主体(歴史学研究別冊特集)』、11月)

山口啓二「(書評と紹介)小林茂編『近世被差別部落関係法令

集』」(『日本歴史』四一四号、11月)

後藤陽一「近世村落の社会的研究」(淡水社、11月)

寺木伸明「近世部落の歴史―起源を中心として―」

(『部落解放』一九〇号、12月)

三浦圭一「部落の生活史9―明智の支城に井戸を掘る」

(『部落』四二六号、12月)

角田直一「小坂騒動―差別の元兇・朱印状の奪還へ」

(『部落問題―調査と研究』四二一、四二二号、12月)

人見彰彦「(シリーズ)部落史のひとこま」(同右)

調査研究所研究部会・歴史(前近代)「(史料解説)打牛仕候者

一件(四)(同右)

神野清一「日本古代社会と賤民」(『歴史評論』三九二号、12月)

藤野 豊「(資料) 神奈川県融和運動史年表(2) 1929〜1932年」(同右)

栗原 省「全国水平社創立六〇周年・西川事件闘争三〇周年記念集会」(『部落』四二五号、11月)

鈴木正節「連載・大正デモクラシーの群像(12) 米田庄太郎」

(『歴史公論』八四号、11月)

公道雑誌社『覆刻公道第一巻』

(西播地域皮多村文書研究会、11月)

部落解放同盟愛知県連合会『愛知県水平社60周年写真集』

(同上、11月)

近代部落関係文書研究会「明治期被差別部落関係資料(3) 東京公文書館史料」(『部落解放研究』三二号、12月)

上杉佐一郎「全国水平社創立六〇周年の意義と課題」

(『部落解放』一九〇号、12月)

村越末男「部落解放運動史」(同右)

渡辺俊雄「『写真記録・全国水平社六十年史』を製作して」

(『解放教育』一六〇号、12月)

中村弘三「傷つき、たおれ、ある者は戦列を去る——『群馬県・

部落解放運動60年史』刊行にあたって」(同右)

研究会歴史部会編「(連載) 東京の近代部落史関係史料集(七)

—東京の融和運動・融和政策(二)—

(『東京部落解放研究』三二号、12月)

米田富・松浦利貞・福田耕作・寺島鉄男・鈴木幸一郎「追悼・深

川不二夫さん」(同右)

好評発売中!

差別と たたかう文化 ⑪

差別とたたかう文化会 編

被差別大衆の生活と文化——インド

主張 植松健郎 / 座談会・インド被差別民衆の生活と運動

|| 土方鉄・吉田卓司・泉慶機 / 座談会・インドの文学と力

―スト || 竹内泰宏・ダシユグブト・渡辺建夫 / 評論・俳優

座「食肉市場のジャンヌ・ダルク」について || 川元祥一 / 他

定価・700円

東京都中央区入船3-3-11

明治図書